

ミナノワ株式会社
障がい者グループホーム
事業計画書



事業所名	：	クライスハイム萩園原事業所
事業開始予定年月日	：	2025年4月1日
計画期間	：	2025年4月1日～2026年3月31日

代表者会議【当日資料1－2－2】

～はじめに～

私たちが共同生活援助事業をはじめようと思ったきっかけは、老人ホームに入居されていた身体障がいを持った男性との出会いでした。

その方は、40代前半で脳梗塞により麻痺が残り日常生活の全てが自力で行えなくなったため、老人ホームへ入居されていました。

周囲は当然高齢者ばかりで、認知症や多くの医療ケア・身体介助を必要とする高齢者との生活の中で、自らの将来を悲観され自傷行為を繰り返す状況を目の当たりにしました。

職を失い、帰る家もなく、生活を支えてくれる家族・選べたはずの選択肢やアドバイスをくれる支援者もおらず、入院生活中にご本人に提示されたの生活の場所は、老人ホームしかなかった。と後からご本人に伺いました。

「同じ状況の人はみんなこういう（老人ホーム）に入るもんだって聞いてたから、、、」と一生懸命に教えてくれたことを今でも覚えています。

それらの状況を目の当たりにして・・・

その方に必要な、その方が自分で選択できる生活の場を提供することが必要なんだと、感じました。

それから、実際にグループホームの運営に携わりながら、生活の場を提供することの重要性を感じ、継続的な支援が利用者様の未来を創っていくことを学びました。

就職して一人暮らしを開始！結婚して幸せな家庭を築き始めた！

グループホームの運営をしながら、何人もの利用者様が自分の未来へと進んでいきました。そんな、生活のバックアップを今後も続けていきraitと考えています。

これからも、新たな道を進んでいく利用者さんの道作りのサポートと後押しができるような企業であり続けたいと思います。

1 事業目的

身体・知的・精神障がい者のいずれも人口増加率を大きく上回り、その中でも精神障がい者の増加率は100%を超えています。障がい者への多様な支援が必要な中で住み慣れた地域で安心して暮らせる住まいの提供を目指し、入所施設ではなく少人数のグループホームでその人に応じた支援ができるよう努めます。

自立した生活の実現、目標達成時期を意識し、利用者1人ひとりの特性への理解を十分に深め、サポートしていきます。

2 企業理念、行動指針

○企業理念

『輪』を繋ぎ 『和』を貴ぶ

私たちを支えてくれる人たちとの輪を大切に、ひとりひとりが尊重しあい総和を目指すプロフェッショナルになる。

○行動指針

1 完結させる人になろう

壁にぶつかった時でも、やり遂げる方法を見つける事。

必ずやり遂げる心を持つ事。

2 良く学び、教えられる人になろう

自らが得た知識や情報を人に教えられる位に身につける事。

人の成長を素直に喜べる事。

3 文句ではなく、意見を言う人になろう

同じ目標に向かっていくため、さらに向上するための意見を発信する事。

やるべきことをやってこそその意見だと全員が理解する事。

4 常に磨き続ける人になろう

個が磨かれる事で、会社全体が磨かれる事を意識する事。

5 人を愛し、人に愛される人になろう

GIVE AND TAKE の精神を忘れない事。

3 運営内容

①対象者

障がい福祉サービス受給者証をお持ちの方（または申請中でも可）
知的、精神、身体に障がいを抱える方
障がい支援区分に関係なく入居可能

②職員体制

管理者
サービス管理責任者
生活支援員
世話人

③人員配置（配置予定）

世話人 3：1で配置

④夜間支援体制（配置予定）

17：00～9：00 各住居1～2名

⑤支援内容

○個別支援計画

- ・適切な支援内容の把握に努めアセスメントの聞き取りを行います。
- ・より自立した生活に近づくための課題や解決方法を考えます。
- ・個々のニーズに沿った個別支援計画を作成します。
- ・個別支援計画書の内容を十分に利用者へ説明します。
- ・状況、状態の変化・把握をするためモニタリングを行います。

○健康管理

- ・常に、健康状態の把握に努め、変化が見られた際は必要に応じて病院受診の促しや、同行を行います。
- ・医療機関との連携を図ります。（必要に応じて日中活動先とも連携）

○金銭管理

- ・利用者の個々の状況に応じ利用者と相談しながら金銭管理を行います。
- ・成年後見制度等を利用者と相談しながら一緒に考えます。

○食事の提供

- ・家庭的なメニューと栄養価・カロリーが計算された献立で朝・昼・夕の食事を提供します。
- ・行事メニューや、誕生会等のメニューを利用者の意向を取り入れながら食事提供を行います。

代表者会議【当日資料1-2-2】

す。

- ・嚥下状態や疾病等に合わせた療法食等のニーズにも、対応していく予定です。

○家族との連携

- ・帰省や必要に応じて家族との連絡調整を行います。

○日常生活上の支援

- ・入浴、排泄、口腔ケア、食事の介助を生活支援員が24時間体制でサポートします。
掃除、洗濯身だしなみ、余暇支援、就労支援、健康管理、服薬管理、金銭管理、緊急時の対応、行政手続き代行・同行、夜間支援、通院同行、連絡調整等を行います。

○買物・外出支援

- ・生活する上で制約などがない利用者については単独で行ける様支援を行います。
- ・介助が必要な方や希望される方については計画的に同行支援を行います。

○余暇活動の支援

- ・利用者の意見を取り入れ、イベント・行事を実施し、休日の過ごし方について支援します。
- ・年間スケジュールに沿って定期的な企画運営を行います。

○緊急対応

- ・利用者に病状の急変等生じた場合は、速やかに医療機関へ連絡を行います。

⑥日中プログラム

7:00～朝食

7:30～口腔ケア・洗顔/整容

8:00～バイタル測定（健康チェック）

9:00～日中活動①

12:00～昼食

13:30～日中活動②（入浴介助を要する方、順次入浴）

15:00～ティータイム

16:00～フリータイム（自由時間）

18:00～夕食

19:00～口腔ケア

19:30～就寝準備

21:00～共同スペース消灯

※日中活動①は主に活動系を想定。

プランター等を利用した家庭菜園、壺焼き芋、近隣散策（買い物含む）、ドライブ、レクリエーション等

※日中活動②は主に作業・創作系を想定。

紙すきによるはがき作り、ぬりえ、壁面画作り、リメイク品の製作等

⇒おやつ作りイベント時には入浴時間を午前中へ変更し、時間を確保する。

4 研修計画

○採用時研修・・・入社後6か月以内

会社の理念や障がいに対する取り組み方を理解する。またサービス提供にあたり注意すべき点や基本的な技術を研修する。

・会社理念、ホーム概要、接遇マナー、苦情・緊急時対応、安全対策等

○継続研修・・・年1回以上

日常業務におけるサービス提供の基礎技術を再確認する。またテーマを決め技術のスキルアップを図る。グループワーク等を中心に年1～2回程度予定

○虐待防止研修・身体拘束廃止研修・・・年1回以上

虐待とは何か、こういった行為が虐待にあたるのかなどを理解する。グループワークや、演習課題を用いて理解を深め虐待防止を徹底する。

身体拘束とは何か、身体拘束に関する正しい知識を理解する。事例を使用して、理解を深め身体拘束せずに支援が出来る環境を継続させる。

○外部研修への参加・・・不定期

職員に対し外部研修の情報提供を行う。

5 防災管理

○消防設備の設置

共同生活援助を営む建物においては、スプリンクラー・自動火災報知設備等、消防設備を設置する。

○消防訓練の実施

消火訓練・避難訓練・通報訓練を職員・利用者・地域住民とともに実施する。

6 苦情解決

利用者又はその家族からの苦情に迅速かつ適切に対応する為、苦情解決受付（箱）及び苦情解決責任者の設置を掲示し、苦情解決への仕組みを利用者・家族に周知し対応致します。

7 個人情報保護

○正当な理由がなく、業務上知り得た利用者又は利用者家族の情報を漏らさないよう注意します。

○他事業者に対して利用者に関する情報を提供する際には、慎重かつ利用者の同意を得ます。

8 人権擁護・虐待防止

- 人権の擁護、虐待防止等に関する責任者の選定及び必要な体制の整備を行います。
- 成年後見人制度の利用支援を行います。
- 苦情解決体制の整備を行います。
- 虐待の防止を啓発・普及する為の従業員に対する研修を実施します。

■ 年間行事スケジュール

4月	外出企画①（お花見）
5月	
6月	
7月	流しそうめん
8月	住居対抗ボーリング大会、スイカ割り
9月	
10月	外出企画②（果物狩り）
11月	
12月	クリスマス会
1月	書初め大会、初詣
2月	豆まき、バレンタインお菓子作り
3月	ホワイトデーお菓子作り

■ その他

毎月第三土曜日	<u>お楽しみ献立（夕食）</u> 第三金曜日の夕食時に希望用紙を記入していただき、 翌日の夕食のメニューを抽選する ※各住居隔週で希望表記入
毎月第一日曜日	<u>みんなで昼食づくり</u> 前日の午前中に利用者と職員で、調理するメニューを決定し、買い出しに行く。 当日みんなで協力し調理後、昼食をとる。